

一心寺かわら版

号外 令和二年五月発行

持名山一心寺 検索

新型コロナウイルスへの対応について

みなさま無事にお過ごしでしょうか。不安な日々が続いているのではないかと心配しております。

新型コロナウイルスによって亡くなられた方とご家族にはかける声もなく、ただただお悔やみ申し上げるばかりです。また、現在、健康被害を受けて苦しんでおられる方々、生活にさまざまな影響を受けておられる方々にお見舞い申し上げます。

自らと周りの方々のいのちを守るために、正しい情報に基づいた適切な行動をとって、感染拡大防止に努めましょう。今回のことによつて、いかに人間が弱い存在か思い知らされました。お互いに寄り添って、助け合っていきましょう。

このような時期だからこそ、手を合わせることで、つながりを感じることでも少しでも心が休まればと願います。そこで、現在の状況下における一心寺の対応などを記してありますので、ご一読いただけましたら幸いです。みなさまの心身の健康を念じあげます。南無阿弥陀仏

法事におけるコロナ感染対策

- ・ お互いが距離を取ることができるとに適した人数で勤めましょう。
- ・ 県外、特に感染拡大地域の方はご遠慮いただくことをお勧めします。
- ・ 窓を開けるなど換気しましょう。

- ・ マスク着用をお願いしましょう。
- ・ アルコール消毒、もしくは石鹸での手洗いをこまめに行いましょう。
- ・ お斎（食事）はしばらく中止した方が良いでしょう。

★住職が伺う際は、マスクを着用します。ご希望でしたらマスクのままお勤めいたします。

状況は刻々と変わっていくでしょうが、緊急事態宣言中はもちろん、解除されてもしばらくは気を付けなければなりません。葬儀、法事には多くの方に参列いただきたいですが、「ウイルスに感染しない、させない」、いのちを守ることが重要です。

住職もステイホーム、老坊守も水曜・金曜以外はほぼ在宅しております。葬儀、法事のご相談はもちろん、近況もお聞かせいただければ幸いです。お電話などでお気軽にお声掛けください。

ご自宅以外での法事の開催方法

▼ 一心寺本堂での開催

- ・ 広いので席間を十分取ることができます。
 - ・ 障子を開け放して十分換気できます。
 - ・ アルコール消毒を設置しております。
 - ・ 椅子、給湯設備、茶器もあります。
- ご法事をされる方の法名（くりだし位牌・過去帳）、お供えなどはご持参ください。
- ※本堂での開催にあたって「花、ろうそく、香などの仏事に必要なものと本堂使用料」として、別途費用をいただいておりますのでご了承ください。



オンラインでの開催

「集まるのは避けたいが法事を勤めたい」、「家族のみで勤める場合でも、親戚、遠方の方にも参加いただきたい」という要望にお応えするために、オンライン法事の体制を整えました。

ネット接続したパソコン、スマートフォンをお持ちでしたら、どこからでも法事の動画を見ながら手を合わせることができます。録画したものを後日見る、DVDを郵送することも可能です。

一心寺本堂から、「YouTube」、「Zoom」などの各種アプリで中継できます。詳しくはお問い合わせください。



★「持名山一心寺ライン公式アカウント」ができました。お寺からの情報発信だけでなく、みなさまからのメッセージをお受けすることができるので便利です。是非ご登録を。



★「持名山一心寺YouTubeチャンネル」創設。現在は過去のイベントなどが配信されています。ホームページ、フェイスブックと合わせてご覧いただければ幸いです。

今後の行事について

- ・七月五日（日）午後二時〜「おてらくご」
 - ・八月二十九日（土）午後六時〜「万灯会」
 - ・九月二十六日（土）午後一時半〜「秋季永代経」
- を予定していますが、その都度、開催の有無や内容についてお知らせいたします。元氣にお会いできますことを楽しみにしております。

新型コロナウイルス感染拡大の今に思うこと

中国・武漢に端を発した新型コロナウイルスによって多くの方のいのちが失われました。日本にも感染が広まり、緊急事態宣言が出されました。香川県は五月六日現在で陽性判明二十八名、入院中十六名、このところ新たな患者が確認されていないのは朗報です。



今回の新型コロナウイルスについて、NHKにも出演されていた長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎教授のお話がわかり易かったので以下に抜粋します。

「新型コロナウイルスとは野生動物が保有しているウイルスの一種だ。背景には、自然環境の止めどない開発や、地球温暖化による野生動物の生息域の縮小などがある。近代的な行為の結果といえよう」

「感染リスクの要因として、「三つの密（密閉空間、密集場所、密接場面）」が明らかになっている。これらを避けるといった一人一人の行動を通じて、患者急増による医療提供体制の崩壊を防ぎつつ、重症者や死亡者を増やさないようにしなければならない」

「人間が集団として、一定以上の割合が免疫を獲得すれば流行は終わる。反対に、それがないと、爆発的な感染拡大が起きるリスクが残る。免疫獲得に向けたワクチンの開発まで、感染の広がりをいかに緩やかにできるかが重要だ」

「数年後に、とは考えにくいですが、長い期間で見れば、新型コロナウイルスは常に出現し続ける。生態系の中で人間が生きる限り、これは避けられない。ウイルスの撲滅は事実上、不可能だ。被害を最小限に抑えながら共存・共生をめざしていくのが望ましい」

残念ながら、インフルエンザと同様に、「封じ込めは不可能」というのはその通りでしょう。免疫については、神戸の病院で四月七日までのデータで、すでに三%の人がコロナ感染後の抗体を持っていたという結果が出ています。しかし、多くの人が抗体を持つにはワクチンを待つしかないでしょう。できる限り致死率を下げる努力をしながら、共存していくにはどのようなことが必要なのか、今回の感染拡大が落ち着いた後のことも視野に入れて考えなければなりません。今後の動向を注意深く見ていきましょう。

また、健康問題以外にも考えさせられることがあります。それは、今回のウイルス感染拡大によって表出してきた人々の言動です。

感染拡大初期に見られたヨーロッパにおけるアジア人差別。外出自粛からくるストレスで増加する虐待・ドメスティックバイオレンス。

トイレトペーパーがなくなるというデマに躍らされて買い占めに走る人々。感染したことが分かって「ウイルスをばらまいてやる」と飲食店に行った男性もいました。

ある国が他国のマスクを強奪したという話もあれば、高齢者が薬局を回る姿を見てかわいそうと思った女子中学生が、お年玉を使ってマスク六〇〇枚を手作りして寄付したという話もあります。

みんなのためにステイホーム、外出を控えることを促す動画配信をする多くの著名人。医療従事者とその家族に対して近寄ることを拒絶する差別・偏見もあれば、感染リスクと向き合いながら最前線で働く彼らに、青色の光で感謝の思いを示す運動が広がっています。

日本赤十字社の動画「ウイルスの次にやってくるもの」が話題になりました。ウイルス感染によってもたらされる恐怖。まずは「病气」、身体の健康問題。そして「不安」と「差別」、これは心の問題。先に例を挙げたように、すでに心の問題が起こっています。



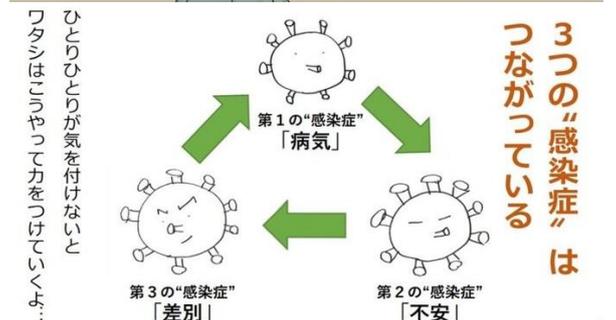
良いお寺研究会代表理事の鶴飼秀徳氏は、



「今回の新型コロナ騒ぎは、それぞれの立場の人間が、自己の都合にあわせて情報を操作した結果、SNSなどを通してデマなどが蔓延。社会混乱に陥っている…祈りをもって不安にかられる人々の心を解きほぐし、一人暮らしのお年寄りに寄り添い、「優しさの連鎖」をつくって悪意の増長を防いでいかねばならない」とおっしゃいます。

浄土真宗僧侶である相愛大学教授・釈徹宗氏は、

「こういう事態になると、不安と恐れで心がきゅっと萎縮します。すると、どうしても攻撃的になったり、誤った情報に惑わされたり、排他的になったりしてしまふ。電車の中でマスクをせずにせきをした人を殴ったとか、家から出られない中で家庭内暴力が増加しているといった話も聞きます。ウイルスの感染もさることながら、そういう萎





縮した心が感染しないようにすることが今、とても大事だと思えます。「待つこと」と「許すこと」の大切さを発信することだと思えます。現代人は待つことと許すことがどんどん苦手になっている。心が萎縮するとますますそうなるでしょう。仏教の言葉で言えば、「和顔愛語（わげんあいご）」。柔らかな笑顔と優しい言葉で相手に接するのです」と述べられています。

絵本作家の五味太郎氏は、



「コロナ禍じゃなかったときは、居心地がよかった？ 普段から感じて不安が、ひるがえってコロナに移っているだけじゃないかな。もっと言えば、不安とか不安定こそが生きてるってことじゃないかな。働き方も国会も学校も、色んなことの本質が露呈されちゃってる。五輪の延期も、オリンピックより人の命って結構大事なんだなとやっとな確認したんだろうし、優先順位がはっきりしてくる」、「世界の全体像は誰

もわからない。でも、これをなかったことにはできないんだから、乗りこえていくというより、前よりよくしましょうよ。でも、こういう時っていつも「早く元に戻ればいい」って言われがちだけど、じゃあ戻ったその当時って本当に充実してたの？ 本当にコロナ前に戻りたい？と問うてみたい」と語っておられます。

今回の非常事態において、私たちの人間性が試されているように思います。人間の本性が出るのに三つの時があると教わりました。

「腹が立った時、誰も見ていない時、大問題に出会った時」です。未知のウイルス感染という大問題に出会って見えてきた社会と私の姿。つながっているのに、支えられているのに、自分だけ良ければいいと考え、他を踏みにじり、傷つけていないでしょうか。以前からそうであったのでしようが、この非常事態に遭遇して、より一層露わになってきたように思います。それに気づいてこそ、攻撃的・排他的にならずに「待つ」「許す」、「和顔愛語」で接するという「優しさの連鎖」が生まれてくるような気がします。今回の経験を糧に、より良い世界に、より優しい人になりたいものです。

春季永代経厳修

住職のお勤めのみでしたが、大勢の方よりお供えをいただきました。みなさまのご先祖の法名が記された、江戸期より続く永代経掛け軸は六幅になっています。欠かすことなく大切に勤めていきたいと思えます。

端午の節句

子供たちがコロナに負けずに、鎧兜の武者のように強く、大空を泳ぐ鯉のぼりのように雄大に羽ばたけることを願って。

